

徳島県立博物館

企画展「阿波漁民ものがたり—海を渡り歩いた漁師たちの5つの話—」

開催期間：平成30年4月27日（金）～平成30年6月10日（日）



企画展示室入口看板と出入口



展示室のようす



展示室での展示解説



連続講座第3回目のようす

【企画展の内容・目的】

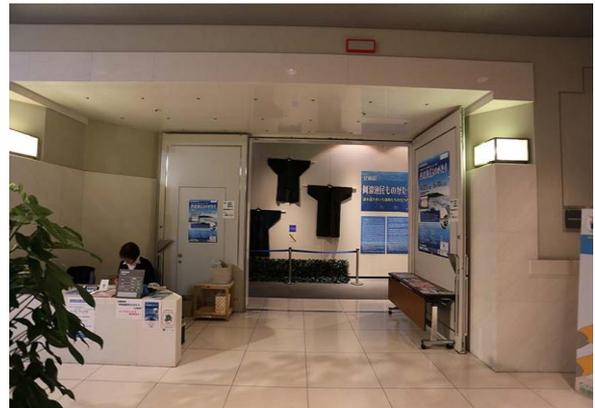
- 徳島県における海を通じた漁民の移動による交流、伝播、移住の歴史と民俗について展示で紹介する。それにより、海と生活、海と食との結び付きへの理解を深める。
- 関連行事として、展示解説（3回）、ウォークラリー、連続講座（3回）、出羽島歴史散歩を実施する。各世代、参加者層に配慮し、子ども向け、家族向けイベントを交えながら、企画展に関連する「海の学び」を推進する。
- 漁民の移動と交流の歴史・民俗について企画展で紹介することで、将来にわたる地域間交流の一助となるよう地域資源化を目指す。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成30年4月27日（金）～平成30年6月10日（日）
- 開催場所：徳島県立博物館 企画展示室
- 入場者数：4,328 人



徳島県立博物館 外観



企画展会場 入口



「第1話 鯛を求めて—鳴門堂浦のテグス行商と一本釣り漁師」のコーナー
テグスサンの幼虫からとった天然テグスが釣り糸に使われていたこと、早くからテグスを使い始めた鳴門堂浦漁民が西日本各地に一本釣りで出漁したこと、テグスを専門に売る行商がいたことを紹介。重要有形民俗文化財指定の50点を含む資料を展示。
主に鳴門市堂浦等を出身地とする漁民移住の事例を通じて、海を通じた漁民の移動による交流、伝播、移住の歴史と民俗に対する理解が深まった。とくに、天然テグスの材料や語源、その漁具としての先進的な活用経緯について関心が集まり、理解が深まった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



左：「第2話 東シナ海にて—九州で『阿波船』の名を轟かせた底曳船団」コーナー

右：「第3話 貝を探して海深くまで—伊島から潜水器をもって遠い海へ—」コーナー

第2話は東シナ海での底曳漁業に関わる九州への出漁について紹介した。明治期に九州北部から五島列島に一本釣り、延縄で出漁、後に福岡、長崎等を拠点に東シナ海、黄海での以西底曳網漁業の一翼を担うようになる。第3話は潜水器漁業による朝鮮半島、西日本各地への漁民の移動について紹介。特殊な技術だった潜水器を使う潜水士の存在が、高度経済成長期の港湾工事、架橋工事に至るまで重宝されていた。

海を通じた漁民間交流、文化伝播、漁法の伝播についての理解が深まった。



左：「第4話 黒潮にのって—遠い海でカツオ・マグロを追った漁師たちの物語—」で展示しているカツオ一本釣りのエサにするイワシ等を活けるための胴丸籠。漁港等に浮かべ、出漁前にエサをすくって直径220cm、高さ150cm。阿波のカツオ船も、大正、昭和初期から三崎港を拠点として石巻、気仙沼等東北太平洋岸まで移動していた。

右：「第3話 貝を探して海深くまで—伊島からの潜水器をもって遠い海へ—」でのハンズオン展示。潜水器用のおもり（ナマリ）を持ち上げる体験コーナー。潜水士が装着して潜水するおもりの重さを体感することで、潜水士の仕事について理解を深めてもらった。

視覚的にインパクトある大型資料や、体験できるハンズオン展示を通じて、子どもや家族連れに来館者に対して漁業等にかかわる海の仕事への理解が深まった。



左：企画展示室入口に写真撮影用の顔出しパネルを作成し、設置した。親子連れなどに利用してもらった。また、写真のSNS投稿を促し、広報への波及効果を狙った。

右：第1話から第5話まで各話をイメージするイラスト、キャラクターを作成し、ぬり絵として主に子どもを対象に配布した。

記念品や記念写真により、企画展での海への学びを再確認してもらい、記憶にとどめてもらうと同時に、写真やぬり絵として持ち帰ってもらうことで記憶の定着をねらった。

【来館者の声】

- 資料が具体的でよかった。わかりやすかった。
- 海で生きる人たちの歴史を知ることができた。
- テグスが何からできているかを知ることができた。
- 船の模型、カツオ漁のえさ駕籠の大きさにびっくりした。

2. 関連事業の内容

■ 展示解説

- 【開催日時】 ①平成30年4月29日（日） 14:00～15:00
②平成30年5月6日（日） 14:00～15:00
③平成30年6月10日（日） 14:00～15:00

【開催場所】 徳島県立博物館企画展示室

【参加者数】 ①50名 ②18名 ③65人

【実施内容・目的】

- 展示の展開にそって展示解説を行った。来館者と対話しながら実施した。
- 展示解説を通じて、企画展の開催趣旨や資料についての理解を深めてもらった。



企画展内では多くの図、写真、文字解説パネルを設置した。もちろん時間をかけて自分のペースで読むことで展示と資料を理解することができた。ただ、展示の背景の話を含めて来館者と対話することにより、深く理解してもらうことができた。



漁民の移動、移住に関する5つテーマについて、その変遷、それぞれの人生について、企画展では「ものがたり」として紹介した。展示している資料と資料をつなぐ海とかかわる生活の「ものがたり」については、来館者と対話し、解説することにより理解が深まった。今回の企画展では、とくに展示解説が有効だと感じた。徳島での海の恵みを受けた生活が継続してきたことへの理解が深まることで、地域における海の重要性を再認識してもらえた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

※展示解説については、展示室内で実施したものであり、アンケート様式は展示を対象とするものに併せて記入してもらった。

【来館者の声】

- 説明がわかりやすかった。展示の工夫を感じた。
- 阿波漁業者の歴史が学べて良かった。
- 潜水士のナマリを持って重さを体験できた。

■こどもの日フェスティバル・ウォークラリー（クイズラリー）

【開催日時】平成30年5月5日（土） 9：30 ～ 16：00

【開催場所】徳島県立博物館企画展示室ほか

【参加者数】531名

【目標・内容】

- 徳島県立博物館のある文化の森総合公園には、他に近代美術館、図書館、文書館、鳥居龍蔵記念博物館等がある。こどもの日には各館が連携したイベントを実施するが、その中でウォークラリーを実施し、企画展内にもチェックポイントを設置した。
- ウォークラリーの参加者は子ども（小学生・幼児等）が多い。クイズに答えてもらうことで資料をじっくり観察してもらい、海と暮らしへの理解が深めてもらうことを目標として実施した。



左：ウォークラリーの受付付近。ここで受付して問題を受け取り、チェックポイントをめぐって問題を解き、全部できると再びここに戻って答えあわせをして景品をもらう。

右：企画展示室内のチェックポイントのようす。ウォークラリーの問題をもった親子連れがひっきりなしに訪れ、展示資料をみながらクイズに答える。



左：カツオー一本釣りのエサを生けていた胴丸籠（直径2mを越える巨大なカゴ）の用途を答えるのが企画展示室のクイズ。ボランティアの方にも参加者を案内してもらうことで、徳島の海と生活について理解を深めてもらうことができた。

右：イベント中に徳島県のゆるキャラ「すだちくん」が企画展を訪れ、潜水士の使う錘もちあげるハンズオン展示を楽しんでもうらことで、広くPRにつなげることができた。

※子どもの日ウォークラリーについては、展示室内で実施したものであり、アンケート様式は展示を対象とするものに併せて記入してもらった。

【来館者の声】

- 由岐（徳島県美波町）で魚釣りゲームをした後だったので、娘も竿や針に興味をもって見て行った。
- テグスが何からできているか、今日初めて知った。
- 潜水士のナマリの重さ体験が良かった。

■企画展記念連続講座（全3回）

【開催日時】①平成30年5月13日（日）13:30～15:00
②平成30年5月20日（日）13:30～15:00
③平成30年5月27日（日）13:30～15:00

【開催場所】徳島県立博物館講座室

【参加者数】①23名 ②37名 ③29名

【目標・内容】

●企画展であつかった5つのテーマに関して、それぞれのテーマについて外部講師を招いて講演してもらう。展示内容や背景について、より深い理解に結びつける。

●講演内容

第1回「伊島の潜水器漁業と人生～明治から戦後へ、『1』からのものがたり～」

講師：神野富一氏（甲南女子大学文学部教授）

第2回「九州・五島行きと以西底曳網漁業」

講師：当館学芸員

第3回「黒潮に運ばれた道一カツオ一本釣り漁の歴史と民俗」

講師：川島秀一氏（日本カツオ学会会長・元東北大学教授）



5月13日（日）に実施した連続講座第1回では、神野富一氏に「伊島の潜水器漁業と人生～明治から戦後へ、『1』からのものがたり～」と題して講演してもらった。当日は阿南市伊島出身の元潜水土や地元住民、伊島小学校の教諭、歴史研究者等が参加し、活発な議論と交流が行われた。出漁漁民の出身地での生活体験のある講師による講演で、海と生活、なりわいの結び付き、漁民の移動について実感をもった話から理解が深まった。なお、連続講座第1回目は企画展「第3話 貝を探して海深くまで—伊島から潜水器をもって遠い海へ—」と関連する講演であった。



5月20日（日）に実施した連続講座第2回では、当館学芸員の磯本宏紀が「九州五島行きと以西底曳網漁業」と題して講演した。当日は九州へ出漁した美波町、阿南市椿泊の漁業関係者や地元住民、漁業史研究者等が参加し、活発な議論と交流が行われた。それにより、福岡、長崎等への漁民の移住者と、徳島県側の出身地との交流再開に向けた動きが具体化する一助にもなった。

なお、連続講座第2回目は企画展「第2話 東シナ海にて—九州で『阿波船』の名を轟かせた底曳網船団—」と関連する講演であった。



5月27日（日）に実施した連続講座第3回では、川島秀一氏に「黒潮に運ばれた道—カツオ一本釣り漁の歴史と民俗—」と題して講演してもらった。当日は漁業史や漁撈民俗に関心を寄せる参加者や漁業史研究者等が参加し、活発な議論と交流が行われた。黒潮を通じた東北地方にまで及ぶ漁民間交流と文化の伝播について話題とし、海と文化のかかわりについて理解が深まった。

なお、連続講座第3回目は企画展「第4話 黒潮にのって—遠い海でカツオ・マグロを追った漁師たちの物語—」と関連する講演であった。

【来館者の声】

- 阿波の昔からの漁師の活躍がよくわかった。
- 九州に県人が多数いることを学んだ。
- 魚（資源）をどうみていたのか、どうしていきたいのか（私たちの問題）を課題だと思った。

■ 出羽島歴史散歩

【開催日時】平成30年6月3日（日）10:45～15:15

【開催場所】徳島県牟岐町出羽島

【参加者数】23名

【目標・内容】

- 企画展の展示内容と深くかかわる牟岐町出羽島を訪れ、現地で歴史散歩し、現地の景観を観察することで出羽島の生活と歴史について理解を深める。
- 参加者同士や地元住民との交流から、企画展の趣旨や内容から派生して社会的課題についても考えを深める。



6月3日（日）に実施した出羽島歴史散歩では、当館学芸員が解説しながら島内を歩いて回った。地元住民や牟岐町観光ボランティアのメンバーも参加し、その他の地域からの参加者と交流の機会をもつことができた。重伝建に登録された出羽島の町並みは、出羽島の漁業（とくにカツオ漁）の隆盛の時期に拡張していったところであり、昭和中期まではカツオ漁船が入港し、鰹節生産が行われた島であり、企画展の第4話「黒潮にのって一遠い海でカツオ・マグロを追った漁師たちの物語―」と関連する内容である。出羽島の景観の観察と解説により、この場所から沖合、遠洋へと出漁したカツオ漁、海のつながりに思いをはせてくれた参加者もいた。

【来館者の声】

- 島の歴史を知るよく知ることができよかった。
- 伝統的な漁村の景観・風情にふれられてよかった。
- 海はどこまでも続いている。こんな出羽島からカツオ漁に行っていたことに思いをはせた。

【事業全体のまとめ】

- ・企画展及び付帯事業の両方から、新たに海にかかわる知見を獲得したり、既知の事実の確認をしたりしてもらえたようで、海に関する絶好の学びの場をつくることができた。
- ・企画展及び付帯事業の両方において、参加者は海、漁業、漁民、海洋資源、移住等を連想し、さまざまな社会的課題に思いめぐらせてくれたようだった。
- ・企画展としてこれまでにない斬新なテーマ設定であり、マスコミや関係者等の注目度が高かった。
- ・企画展実施にあたり、県外への漁業移住者や関連企業等と連携し、展示資料の整理、抽出にあたった。そのことが、企画展後の地域における活動や他館の活動に波及効果を与えたようである。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 伊座利漁業協同組合	資料借用
2. 伊島町会	資料借用
3. 香川県立図書館	資料借用
4. (株)トクスイコーポレーション	写真提供、資料借用
5. 唐津市教育委員会	写真提供
6. 佐田神社	資料借用
7. 穴喰漁業協同組合	資料借用
8. 瀬戸内海歴史民俗資料館	資料借用
9. 徳島県立城北高等学校	資料借用
10. 徳島県立図書館	資料借用
11. 長崎すだち連	資料借用
12. 美波町教育委員会	資料借用
13. 宮本常一記念館	写真提供、資料借用
14. 薬王寺	資料借用
15. 和歌山県立文書館	資料借用
16. 牟岐町教育委員会	関連行事協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 徳島新聞朝刊	漁師の軌跡をたどる企画展、2018年4月26日
2. 四国放送テレビ「フォーカス徳島」	県立博物館企画展「阿波漁民ものがたり」、2018年5月1日

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

3. 徳島新聞朝刊	県立博物館企画展連続講座 阿波漁民の技術・文化紹介、2018年5月4日
4. 朝日新聞朝刊徳島版	江戸期からの漁師の歩み、2018年5月19日
5. NHK 徳島 ニュース	県立博物館企画展「阿波漁民ものがたり」、2018年5月28日以降放送
6. 徳島新聞夕刊	(藍がめ)、2018年5月26日
7. 毎日新聞朝刊徳島版	(うみやまりレーダイアリー)世界史を実感できる教育を、2018年6月2日
8. 読売新聞朝刊徳島版	阿波漁民 歴史と心意気、2018年6月7日
9. 徳島新聞朝刊(読者の手紙)	阿波の漁師 輝かしい活躍、2018年6月7日

以上